

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

『週刊現代 - JR東日本革マル浸透問題告発 - 』 **連載第22回**

群馬県嬭恋村に「JR革マル村」があった！

『週刊現代』が、JR東日本の革マル浸透問題を連載記事で告発した。本紙は驚くべきこの事実をシリーズで紹介する。（JR連合民主化闘争情報号外より一部抜粋）

< 週刊現代2006年12月18日発売号 >

組合費流用の新たな証拠、4万2000㎡の高級別荘地を買っていた

軽井沢と並ぶ、関東屈指のリゾート地、群馬県・嬭恋村。…嬭恋のなかでも、最も奥まった森のなかに、その「村」はあった。約4万2000㎡の広大な敷地内に、点在する6つの建物。そのほとんどが暖炉付きの豪華なログハウスだ。これらのログハウス、そしてこの広大な土地の所有者は全員、JR東日本の主要・最大組合『JR東労組』と、その上部団体『JR総連』の絶対権力者で、「革マル派最高幹部」の松崎明氏の関係者。つまりこの一帯は松崎を頂点としてJR東日本に巣くう「JR革マル派」の「村」なのだ。…

地元不動産業者は「革マル村」の値段をこう分析する。「ここは現在、坪8千円前後で売買されます。これを元に算出すると、土地全体で約1億円、建物は約1千万～3千5百万円。土地、建物合わせ計約2億円の価値はあります。しかし87年当時はバブル景気が始まった頃で、嬭恋も『別荘ブーム』に沸いていました。土地の値段も高騰し始めていた頃で、土地だけでも約2億6千万円はしたでしょう」

JR東労組現役幹部ら3人が購入した土地の登記簿をみると、抵当権が設定されていない。つまり、彼らはキャッシュで購入した可能性が高いのだが、これらの土地はその後、奇妙な動きを見せる。

「テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実 群馬県嬭恋に『革マル村』があった」と題するこの記事は、松崎明氏（JR東労組元会長）の組合費流用疑惑の新たな証拠として、JR東労組関係者名義の広大な別荘の存在を明らかにしている。

AとCのログハウスの所有者は「加藤實＝“自然と人間社”の社長」、Dのログハウスの所有者は「高橋佳夫＝東労組研修部長」夫妻、Eのログハウスの所有者は松崎の親戚夫妻になっている。（BとFの建物は未登記）広大な土地（4万2000㎡）の内、2万4000㎡は組合専従職員ら3人が購入したものであるが、95年に鉄道ファミリーに転売、00年には九つの土地に分筆している。この土地を買ったのが佐藤大介（佐藤正雄の息子）、森将美（松崎の長女の娘婿）、松崎篤（松崎の長男）だ。この土地の所有者の変遷は何を意味するのだろうか。・・・警視庁公安部による松崎の組合費横領疑惑の内偵捜査が本格化していた時期だ。これは、まさに松崎による組合費横領の“証拠隠滅”ではないのか。警視庁公安部も注目する、この「JR革マル村」。松崎が生んだ組織の腐敗はまさに、底なしの様相を呈している。